

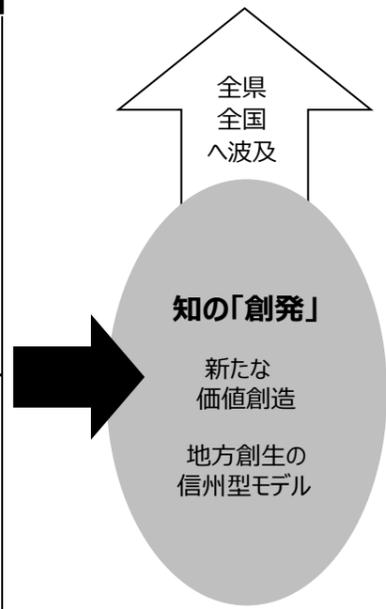
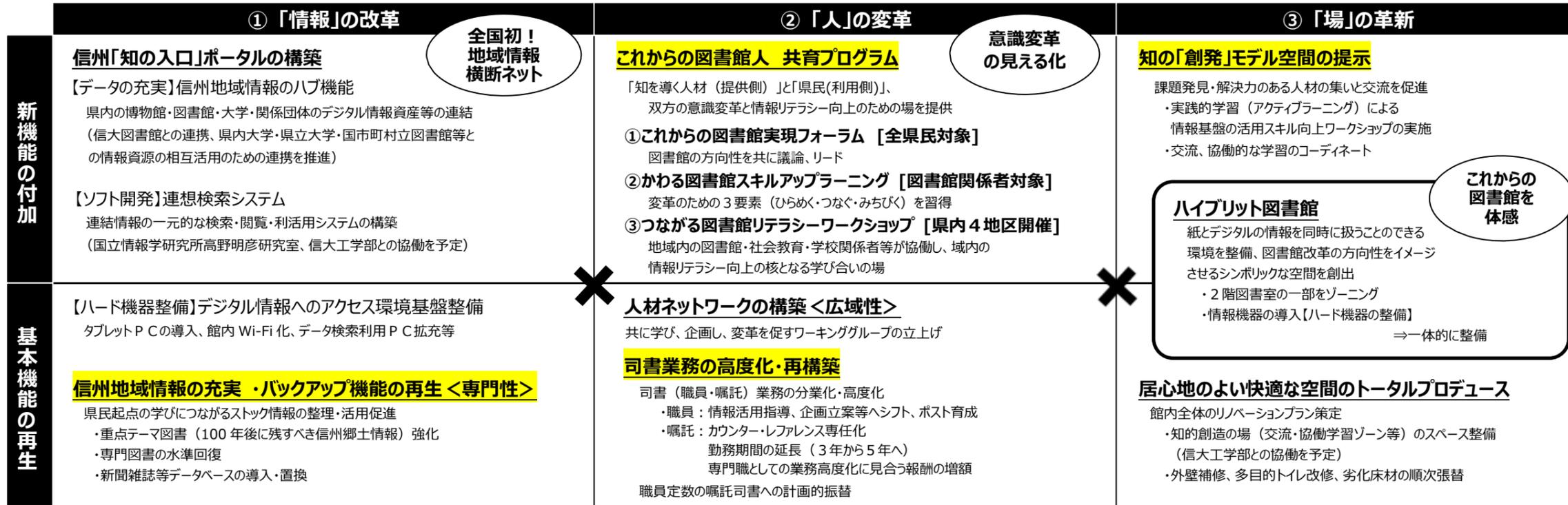
図書館改革事業

目指す姿

地域課題を発見・解決し新たな価値を生み出していくためには、「情報リテラシー」（情報を探索、選択、理解、編集し活用する能力）が不可欠。
県立長野図書館は、県内の公共・学校図書館と共に
“資料の収集・収蔵資料の提供”から“情報・知識基盤社会の知の拠点”へ変革し、多様な県民の知的創造の基盤たる役割を目指す。

改革のための取り組み

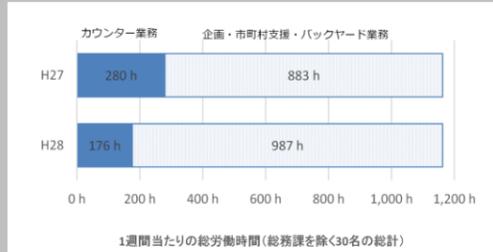
これからの図書館像実現のための、3つのチャレンジ



司書業務の高度化・再構築

● H28 働き方改革

1 カウンター業務の人員体制を見直し
1日当たり**2.24人分**
(104h/週)の業務改善を達成



	H27	H28	増減	備考
正規職員	150 h	24 h	-126 h	
企画業務等	548 h	596 h	48 h	
小計	698 h	620 h	-78 h	18人→16人
行政嘱託	130 h	152 h	22 h	
バックヤード業務	335 h	391 h	56 h	
小計	465 h	543 h	78 h	12人→14人
総勤務時間(1週間)	1,163 h	1,163 h	0 h	

● H29 働き方改革

嘱託司書に「運用リーダー」制を導入
⇒ 正規司書の指示のもと、実施担当者(嘱託)の指導や、日週単位での業務進捗管理をおこなう
運用リーダーを新設し、業務の効率化・円滑化を図る。
(2人/14人中、報酬8,025→9,500円/日へ増額)

これからの図書館人 共育プログラム

● H28 主なプログラム

H28.7.1
都道府県図書館サミット in 塩尻
- 都道府県立図書館は生き残れるか -



全国初開催！塩尻市えんパークに
35都道府県からおよそ150名が集い
都道府県立図書館の現状と将来像を議論

H28.6.18~10.1 計3回
可能性を形に。
これからの『図書館』想像会議



図書館関係者のほか、一般市民・
信大生・設計事務所社員等が参加して
「公共空間」を考えるワークショップを実施

● H29 予定プログラム

地域をリードする中核図書館を主体としたフォーラム等の展開

- ①「これからの図書館実現フォーラム2017」(H29.11開催)
- ②「情報基盤のデジタル化」「知識基盤社会における学び」
公共図書館とのタイアップ研修 2テーマ つながる・みちびく
- ③「地域版：図書館フォーラム」 県内4地区の拠点図書館別ワークショップ
地域アーカイブ・課題解決支援・学校連携・情報リテラシー教育など



知の「創発」モデル空間

- H28 「ハイブリット図書館」(2F) - 「本の館」から「情報の拠点」へ -
新聞雑誌スペースを改修し、タブレット利用が可能な研修・ワークショップスペースに



ナレッジ・ラボ

- H30 「信州地域創造情報ラボ」(3F) モデル空間イメージ

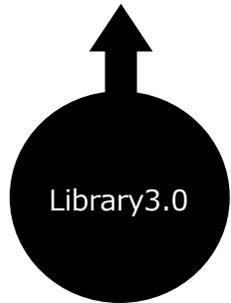
フロアコンセプト
図書館がまちをつくり、まちが図書館をつくる
- 信州地域創造の「実験室」 -

図書館の優位性をいかし、
情報と人々とを「再編集(コーディネート)」
地域社会の課題解決に貢献しながら
学び続ける県民が、
新たな価値を創造し発信する場



イメージ提供：内田洋行パンフレット

図書館の歩みと県立長野図書館の目指す姿



知の「創発」 情報と活動の拠点 これから

地域に根ざし未来を創り出す
学びの「核」となる図書館

Library 3.0

Library 2.5



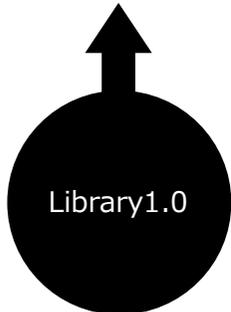
IT時代の到来 2000

市民の図書館 1970～

市民を支える図書館

1. 市民の求める図書を自由に気軽に **貸出サービス**
2. 児童の読書要求に応える徹底した **児童サービス**
3. あらゆる人に図書を貸し出すための **全域サービス**

Library 2.0



教養と研究の図書館 1945～

資料を収集・保存・公開し
調査活動を支援する図書館

Library 1.0

情報の活用と
実践的な活動を提案

情報 × 情報
情報 × 人
人 × 人

本・デジタル
形を問わない
情報の提供

自館に所蔵している
本の提供

本の利用は
個人的目的のため
(趣味・研究・余暇時間)

H31～

- ◇ **共知・共創の場** – 多様な“co-”が生まれる空間 –
- ◇ 自立した市民が創造的に学ぶ
地域の課題解決に貢献しながら、生涯にわたりいきいきと学ぶ・くらしに学ぶ

【co-】とは…
「共に・相互に」という意味の接頭語

これまでの生き方

他者に用意された価値の中から選択する

一部知識人の成果物である本やコンテンツ
本の収集・保存・管理を適切に行える人材
情報メディア空間・研修室など目的別の空間

図書館の
役割の
転換

これからの生き方

既存の価値に手を加え、オリジナルの価値を生み出す

信州に関する
「情報基盤」の共有

企画・プロデュース力を
備えた図書コア人材

オープンライブラリー・ファブラボ 学び合いの場

H27～H30 (Library 3.0 への過渡期)

- ・ H27 平賀館長就任
- H28 **2F 一部改修** 情報のハイブリット化 (デジタルコンテンツ導入), ワークショップスペース設置
- H30 **3F 全面改修** 交流スペース, オープンスペースの導入

H16～H26

- H16 **1F・2F 改修** 現在のレイアウトに変更
1F 一般貸出室を廃止
2F 閲覧室を一般図書室とし、貸出図書を大幅増 (28万→47万冊)
- ・ 児童図書の拡充 (H14: 58,583冊 → H19: 77,967冊), 外国語図書の拡充
- ・ H17～19 おはなしドキドキぱく事業

H3～H15 (Library 2.0 への移行期)

- H3 **1F 改修** 一般貸出室・親子読書室の面積増 (貸出図書の増)
1F 郷土資料室を廃止し、2F 閲覧室に統合 (2F は引き続き閲覧のみ)

S54 (若里移転) ～H2

- ・ 2F 閲覧室、郷土資料 (当初 3F → 移動後 1F) の資料は館内閲覧のみ
- ・ 一般貸出は 1F の一部資料 (一般貸出室、親子読書室) に限定

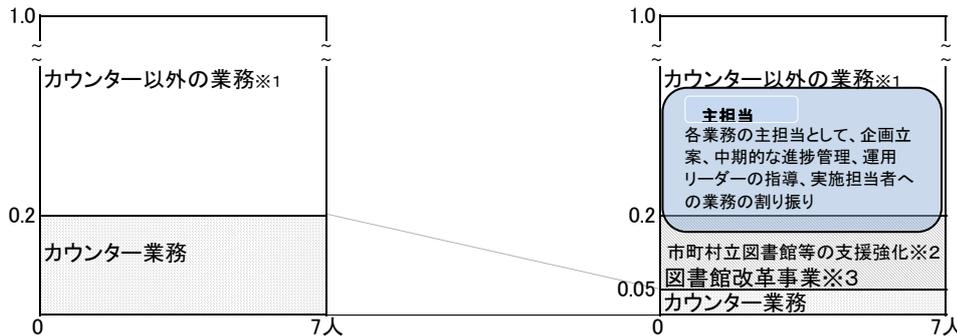
県立長野図書館の業務について

(庶務・会計等を行う総務課を除く)

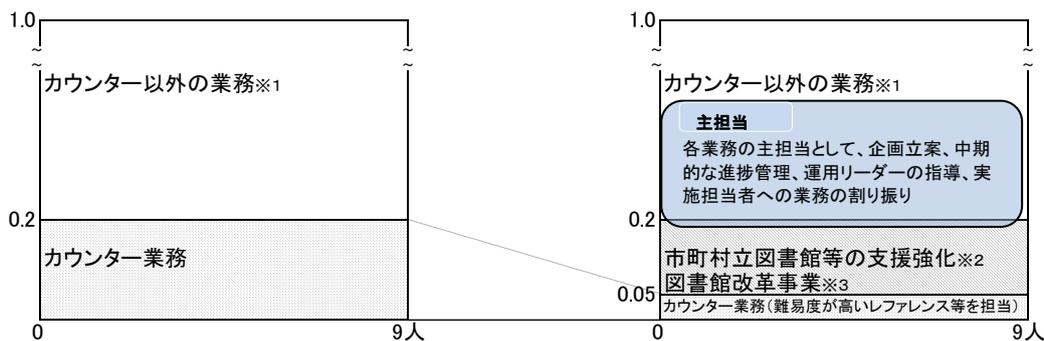
県立長野図書館



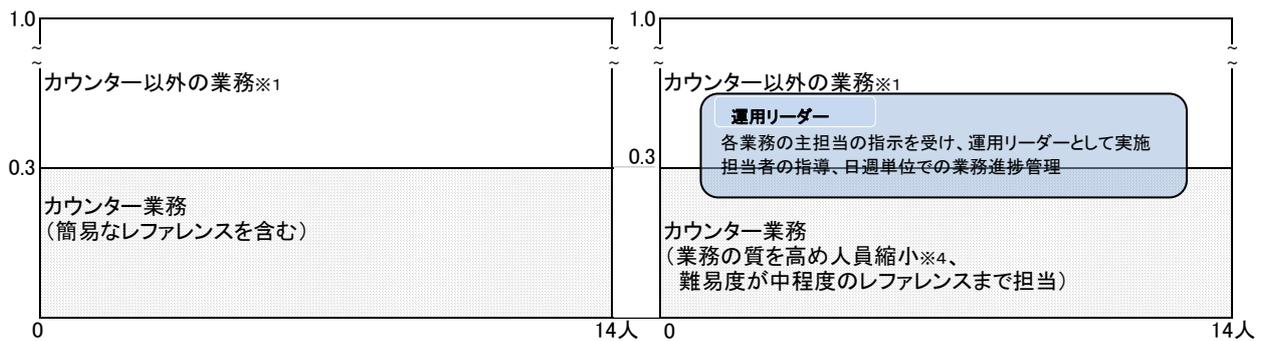
○行政事務



○行政司書



○嘱託司書



※1 人的資源の開発及びネットワークづくり、図書資料による物的支援、公立図書館の設置・運営に係る情報提供・相談・助言、プログラムの企画・提案、広報・対外業務、資料選定、資料発注・受入・支払、資料登録、配架・除籍、レファレンス(カウンター以外)、バックオフィス業務、閲覧室の情報・空間整備

※2 市町村立図書館の支援
 県内図書館情報の発信・共有
 図書館未設置町村への図書館設置に係るアドバイス
 図書館企画・サービスの提供
 学校図書館との連携
 信州学を通じた学校図書館との連携

※3 図書館改革事業
 情報資料のあり方の検討
 所蔵資料の整理・再組織化の検討
 モデル空間の整備検討
 電子情報対応(システム更新含む)

※4 カウンター人員体制 (人)

場 所		～H28.5	H28.6～
平日	児童図書室(9:00～17:00)	2	1
	一般図書室(9:00～19:00)	3	2
土・日・休日	児童図書室(9:00～17:00)	3	2
	一般図書室(9:00～17:00)	3	2

(注1) H28.6以降は、嘱託司書を配置[ただし、平日の一般図書室(17:00～19:00)のうち1人と土・日・祝日の一般図書室のうち1人を除く]

(注2) H28.6以降は、混雑時や難易度が高いレファレンス対応として、バックアップ人員を別に配置し事務室で待機

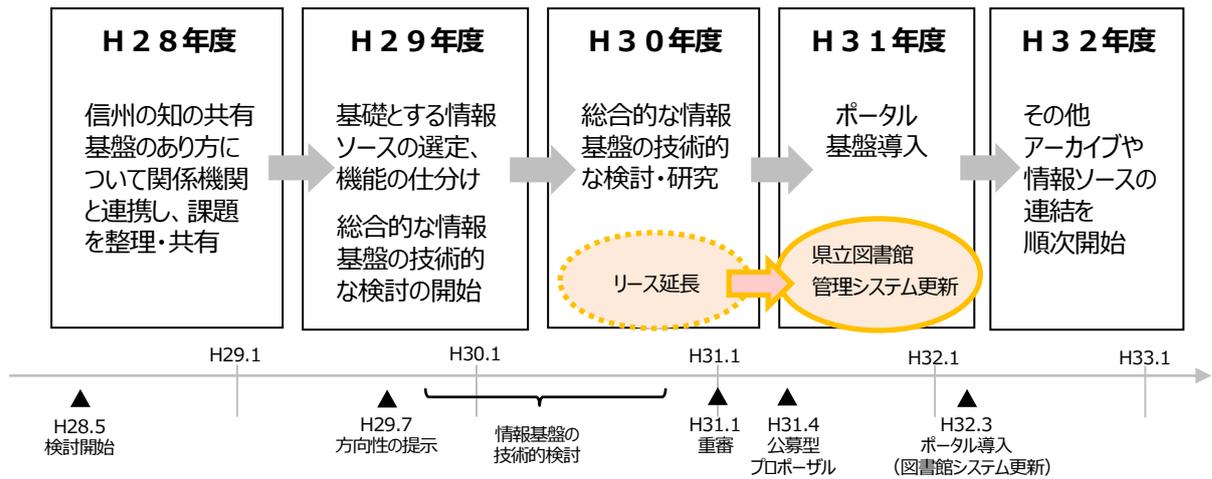
「信州 知の入口」ポータル構築について

文化財・生涯学習課（県立長野図書館）

1 ポータル構築のねらい

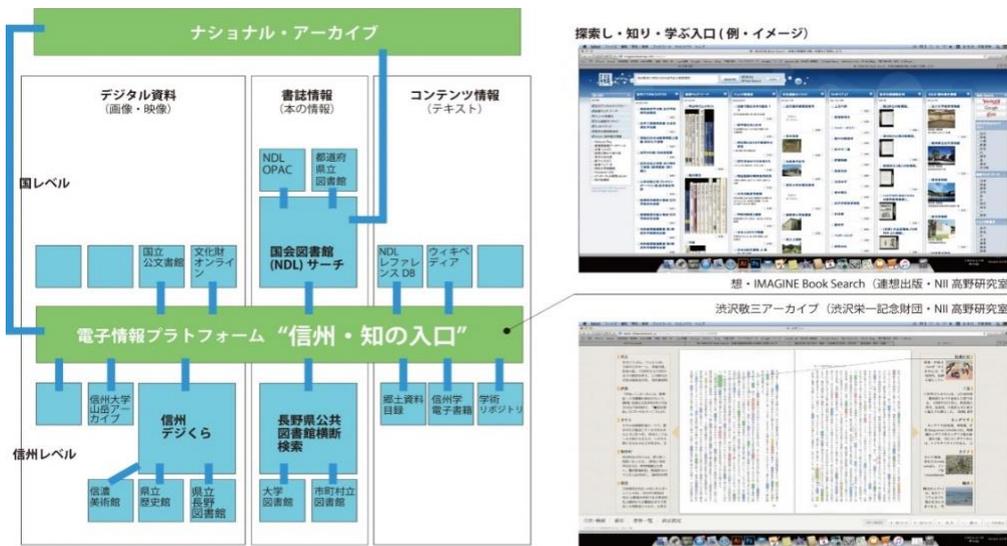
県内の図書館、博物館、大学などに所在する情報資産を連携させて相互活用を容易にすることにより、県民が情報を探索・理解・選択し活用していく（情報リテラシー）ための信州の知の基盤の役割を果たす。

2 スケジュール



3 平成 29 年度の予定

- ① 信州に関する情報資源の適切な保存管理とその共有基盤のあり方について、引き続き、各機関と綿密な打合せを行う。
- ② 新しい総合的な情報基盤（ポータル）に求める機能と、その実現のための技術的な検討を行う。
 ※ 県立長野図書館コンピューター管理システムの更新はH30年度（H31.3）であるが、上記検討に時間を要するため、既存システムのリースを1年延長し、H31年度（H32.3）ポータルの一部として組み込む予定。



4 H28 年度実績

● 「県の情報資産」のあり方検討（信州大学・県立歴史館・信濃美術館等との連携）

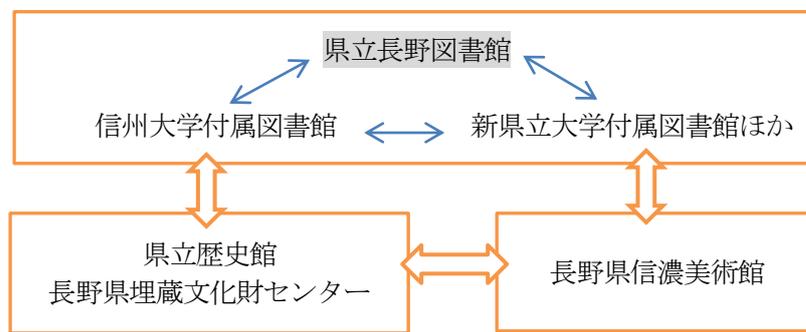
- ① 県の各機関が持つ情報資産を連結し、信州の知の資産を共有する基盤を協力して整備していくことで合意。
- ② 基盤を構築していくための課題整理や、県の情報資産のあり方について、継続的な意見交換を実施。

第1回 平成28年5月31日（火） 信州大学附属中央図書館

第2回 平成28年7月27日（水） 信州大学教育学部附属図書館 ほか 個別に随時実施

- ③ 地域資源を活用した学びの支援について県民の意識養成を図るため、戦略的MLA連携による地域創生フォーラムを12月に開催。

「信州 知の連携フォーラム」平成28年12月13日（火） 信州大学附属図書館（松本市）



● 「信州に関する情報ソース」の連携に関する技術的検討（公共図書館・民間組織との連携）

- ① 公共図書館における情報システムとデジタルアーカイブ・電子書籍について考えるフォーラムを11月に開催。

平成28年11月1日（火） 於:松本市立中央図書館

- ・図書館情報システム（コンピュータ管理システム）の県立・公共図書館間における共同化
- ・デジタルアーカイブ構築、電子書籍導入についての技術的な課題について、電子書籍運営会社・蔵書検索サービス運営会社等の担当者による問題提起

- ② 上記検討のための関係者による研究グループの立ち上げ

- ・県内の基幹図書館（松本市立中央、市立小諸、松川村立など）の担当者が協力して、システム共同化、デジタル化の導入・構築についての課題整理・検討を行っていく。

平成29年度予算要望データベース

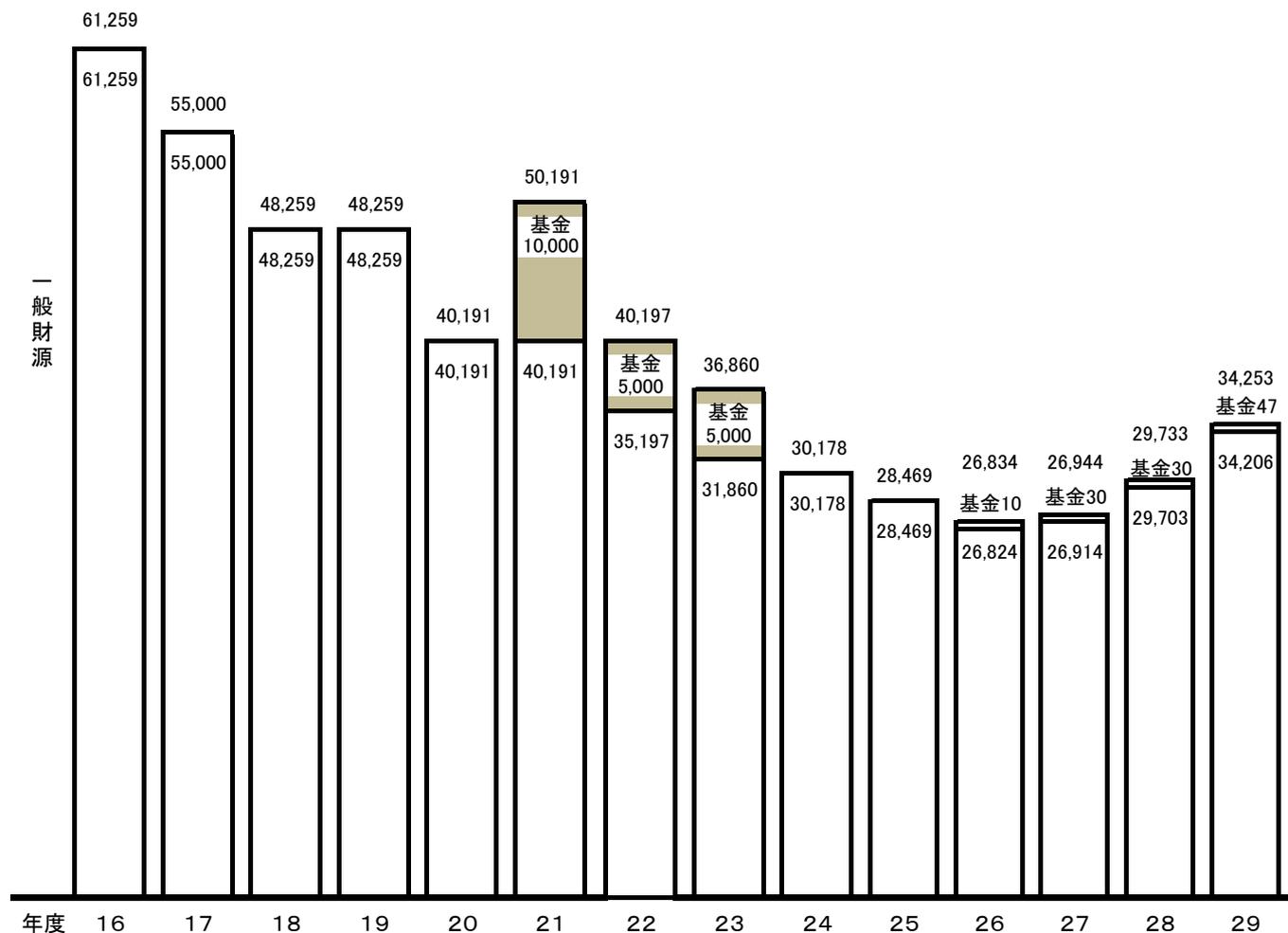
県立長野図書館

図書資料の収集に当たり重点テーマである「信州で学ぶ」「信州で働く」「信州で暮らす」「信州でまちをつくる」ことを支援する次のデータベースを整備する

No	提供者 データベース名	活用概要	概要
平成28年度から継続			
1	信濃毎日新聞社 「信濃毎日新聞 データベース」	地域学習 調べ学習 就活対策	過去から現在の信濃毎日新聞記事から、歴史・時事・生活を学ぶのに有効な新聞記事検索データベース 地元紙、明治6年の創刊当初からの地域の記事を効果的に収集するのに有効 就活に関する情報の効率的収集に有効
2	朝日新聞社 「聞蔵Ⅱ」	調べ学習 情報収集 就活対策	過去から現在の朝日新聞記事から、歴史・時事を学ぶのに有効な新聞記事検索データベース 平成9年以降の地元の記事も収集でき、調べ学習に有効 就活に関する時事情報の効率的収集に有効
3	日本経済新聞社 「日経テレコン」	ビジネス支援 調べ学習 就活対策	過去から現在の日本経済新聞系の新聞記事から、特に経済時事を調査するのに有効な新聞記事検索データベース 地域経済や都市のデータランキングなどが検索できるため、信州で起業を考えている方や地域経済を学ぶのに有効
4	(株)第一法規 「法情報総合データベース」	調べ学習 法律調査 生活問題対策	憲法から告示まで、法情報が検索できる法情報総合データベース 旧法も検索可能なため、法律の変遷などの調べ学習に有効 信州に暮らすにあたって生活問題の対策に有効
5	国立印刷局 「官報情報検索サービス」	調べ学習 法改正調査 生活問題対策	法律・政令・条例の公布どや国の政府調達の公告などが調べられるデータベース 国の法改正などを調査することで生活の備えやビジネス支援に有効
平成29年度導入予定			
1	(一社)農山漁村文化協会 「ルーラル電子図書館」	農業学習 農業支援	はじめての野菜作りから、セミプロ農業まで学べるデータベース 農文協発行の書籍のデータが呼び出せ、作物別の農業に関する様々な情報が得られるほか、農業入門・食とくらし館・しらべ学習などのコーナーから信州で暮らし、食と農を学ぶのに有効
2	日外アソシエーツ 「magazineplus」	学習支援 情報収集	一般紙から専門誌・大学紀要・海外誌紙まで収録した雑誌・論文データベース 範囲が幅広く、学術系から趣味の雑誌まで網羅しているため、さまざまなレファレンスに有効
3	(株)ネットアドバンス 「ジャパンレッジ」	学習支援 情報収集	50種類以上の辞事典、雑誌記事、叢書などを一括で調べられるデータベース 百科事典、各種辞書(外国語含む)、歴史辞典、用語など調査可能範囲が幅広く、さまざまなレファレンスに有効
4	(株)ジー・サーチ 「J-DreamⅢ」	科学技術学習 ビジネス支援 医療情報提供	世界中の科学技術や医学・薬学関係の最新文献情報が得られるデータベース 医療情報だけでなく理科系全般の文献情報が見られるため、最新の科学技術の学習に有効
5	読売新聞社 「ヨミダス歴史館」	調べ学習 情報収集 就活対策	過去から現在の読売新聞記事から、歴史・時事を学ぶのに有効な新聞記事検索データベース 昭和8年以降の地元の記事も収集でき、調べ学習に有効 就活に関する時事情報の効率的収集に有効
6	毎日新聞社 「毎索」	調べ学習 情報収集 就活対策	過去から現在の毎日新聞記事から、歴史・時事を学ぶのに有効な新聞記事検索データベース 平成6年4月以降の地元の記事も収集でき、調べ学習に有効 就活に関する時事情報の効率的収集に有効
7	(株)ポプラ社 「ポプラディアネット」	児童学習支援 調べ学習	百科事典データベース 児童・生徒・学生に学習用資料をそろえたり、調べ学習の資料の充実が有効。マウスだけで検索できる機能・ふりがな対応で、児童のみならず多くの世代の活用が見込まれる。
8	(株)日本統計センター 「市場情報評価ナビMieNa」	ビジネス支援 地域学習 統計分析	さまざまな情報で創業・ビジネスを支援するデータベース 町丁目単位の商圏レポートや市町村、都道府県単位の地域特性レポートが調べられるため、信州で起業を考えている方や信州の地域を学ぶのに有効

図 書 購 入 費 の 推 移

当初予算 [単位:千円]

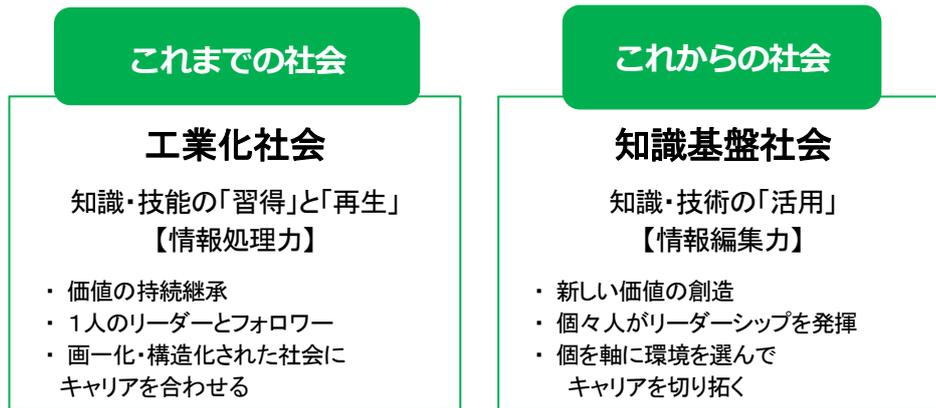


年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
一般財源	61,259	55,000	48,259	48,259	40,191	40,191	35,197	31,860	30,178	28,469	26,824	26,914	29,703	34,206
コーラル基金						10,000	5,000	5,000		図書館充実基金	10	30	30	47
計	61,259	55,000	48,259	48,259	40,191	50,191	40,197	36,860	30,178	28,469	26,834	26,944	29,733	34,253
増減(%)		△ 6,259 (△10.2)	△ 6,741 (△12.3)	0 (-)	△ 8,068 (△16.7)	10,000 (24.9)	△ 9,994 (△20.0)	△ 3,337 (△8.3)	△ 6,682 (△18.1)	△ 1,709 (△5.7)	△ 1,635 (△5.8)	110 1.00	2,789 1.01	4,520 1.02

これからの図書館人 共育プログラム

1 プログラムの必要性

21世紀は「知識基盤社会 (knowledge-based society)」の時代といわれる。新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増すこの社会では、知っているか否かではなく、知っていることをどのように使うかが重要で、知識や技術の活用を軸とした【情報編集力】により新たな価値を創造することができる人材の育成が急務である。

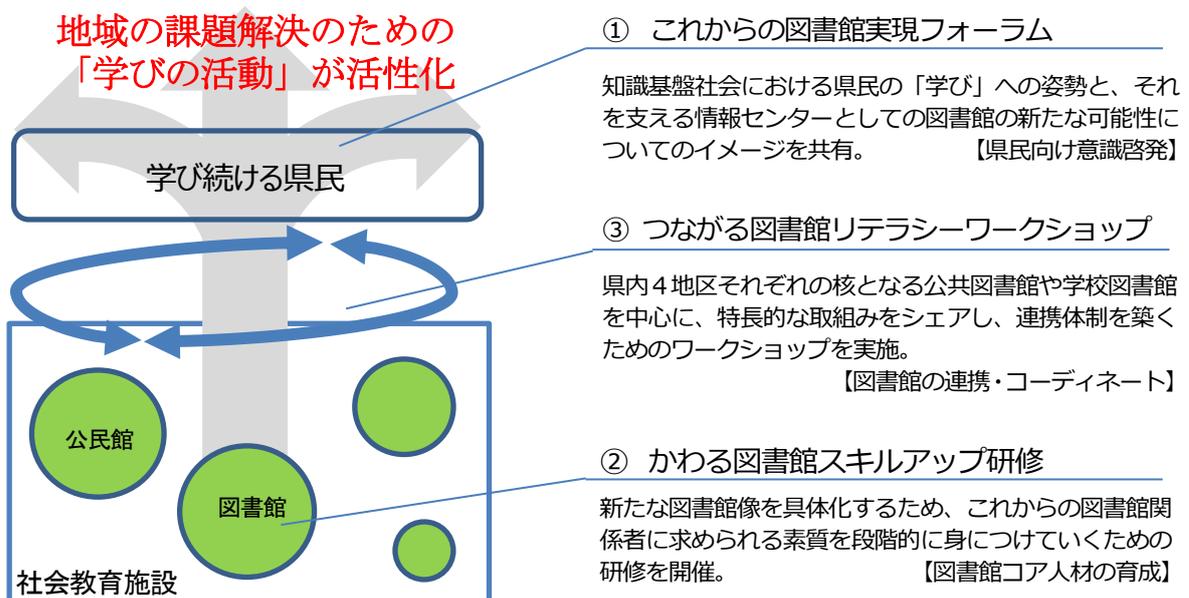


変化が激しい、予測できない社会において、必要とされる資質・能力は？

「地域の課題解決に貢献しながら学ぶこと」

県立長野図書館では、これからの社会を生き抜いていくために必要とされる資質・能力を備えた「学び続ける県民」を支援する社会教育機関として、知の基盤となる図書館の多様性と新しい姿を共に考え実現していくための3つのプログラムを実施する。

2 実施プログラムの位置付け



3 今後の実施予定（集中的に実施するテーマ）

	H27	H28	H29	H30	H31
① これからの 図書館実現 フォーラム		地域課題解決のための自発的な学びの意識付け			
		情報リテラシーの向上			
② かわる図書館 スキルアップ 研修		課題解決のために図書館の果たす役割			
		公共空間としての図書館のあり方			
		資料のデジタル化による情報基盤の確立			
③ つながる図書館 リテラシーワー クショップ	公共空間の役割検討				
			「信州学」の探求学習への支援と地域での学び		
			資料のデジタル化への技術的対応		

5 平成 28 年度の成果

- ① 県内外の公共・学校・大学図書館職員や教員、民間企業、行政職員、大学生等の様々な職種・年齢層の参加者を得て、今の図書館が抱える課題を共有し解決の方策を一緒に協議できたことで、特に県内公共図書館司書・職員にとっては県内外の関係者との交流が図られ、また、自分たちの現場や地域の問題として考えていくきっかけとなった。
- ② 公共図書館・学校司書、建築設計事務所社員、一般市民が参加して参加者で議論しながら理想の図書館を創る作業を行っている。図書館が県民協働による学びあいの場、地域やサークルの自主活動の場として機能していくためのモデル事例として発信できる見込み。
- ③ 事業成果は、モデル事例として県内公共図書館へ紹介し、今後県内各地域の拠点図書館を中心とした自発的取組みとして進むようコーディネートする。